



創刊 1946(昭和21)年5月1日

発行所

日本教育新聞社

〒105-8436

東京都港区虎ノ門1-2-8

電話03(5510)7777(大代表)

郵便振替 00150-8-196500

©日本教育新聞社 2013

購読申し込み 03(5510)7828

Eメール kodoku@kyoiku-press.co.jp

ホームページ http://www.kyoiku-press.co.jp

購読申し込み ホームページ

グローバル人材の



<6>

「地球村への10のステップ」(以下、「地球村」)は、生徒たちがグローバル時代に生きる意味を求め、自分でデザインした超高速の乗り物で宇宙に飛び立つところから始まる。地球を眺め、「日本という小さな国の一軒の家に今生命をもらったとは、どうということなのか？」と考える。その後地球に戻り、10の宇宙駅を通して理想の「地球村」目指して旅に出る。世界をまたぐ空間軸と何千年に及ぶ時間軸を基に、飛行記録を付けながら人間のこれまでの行いをリアルタイムで体験していくのだ。

最初に到着するのは、今から



渥美 育子 マルチカルチュラル・プレイング フィールド(MPF)社長

2300年さかのぼった古代ギリシャ。そこで、出会ったのはエラトステネス。「コンピュータも飛行機もない時代にどうやって地球の大きさを測ったのか?」。彼から生徒たちはひらめきの法則を学ぶ。

「どうやってたらでできるか」追究

「世界の文化地図を手に携えた生徒たちは、現在の地球村では文化やルールがどう違うのかを学び、今度は中世のユーラシアへと渡る。中国と中東を結ぶ

「絹の道」を舞台に、地域ごとの特産物を確認しながら交易の旅を体験。現在の価値体系のルーツであるキリスト教、イスラム教、儒教などが生まれ、ぶつかり、伝わった現場がまさに「絹の道」であったことに気付く。

「絹の道」を舞台に、地域ごとの特産物を確認しながら交易の旅を体験。現在の価値体系のルーツであるキリスト教、イスラム教、儒教などが生まれ、ぶつかり、伝わった現場がまさに「絹の道」であったことに気付く。

「絹の道」を舞台に、地域ごとの特産物を確認しながら交易の旅を体験。現在の価値体系のルーツであるキリスト教、イスラム教、儒教などが生まれ、ぶつかり、伝わった現場がまさに「絹の道」であったことに気付く。

「世界文化地図を手に携えた生徒たちは、現在の地球村では文化やルールがどう違うのかを学び、今度は中世のユーラシアへと渡る。中国と中東を結ぶ「絹の道」を舞台に、地域ごとの特産物を確認しながら交易の旅を体験。現在の価値体系のルーツであるキリスト教、イスラム教、儒教などが生まれ、ぶつかり、伝わった現場がまさに「絹の道」であったことに気付く。

クライマックスは、世界大戦に巻き込まれ木っ端みじんになった後、残虐になり得る人間の心に歯止めをかけようと「地球村の憲法」の策定を決意する場面だ。

「地球村」には50分2コマで完結する21のプログラムとイントロダクションがあり、そのうちの七つを選んでハイライトコースとしている。グローバル教育の特徴の一つは、「私にはできない」「どうやってたらでできるか」に変える力にある。個をグローバル化することで、それを時には考えられないスピードで実現する。

私は中3〜高1・2年の間に

全員がこうしたグローバル教育を受け、現在の断片的な知識に横串を通すことを強く提唱したい。70億の人々を横並べにしてみんな大切な生命を持つ大切な存在だと見るようになれば、いじめや嫉妬もほとんど意味を持たなくなる。受検も人生の一つのイベントとして立派にこなしながら、日本から世界を愛するに情熱を傾ける人間となって社会に出ていくだろう。